

源氏物語

中



源氏小鑑中の差目録

し如

^{まろ}初音

河

海火

こゆき

まろ

玉

胡蝶

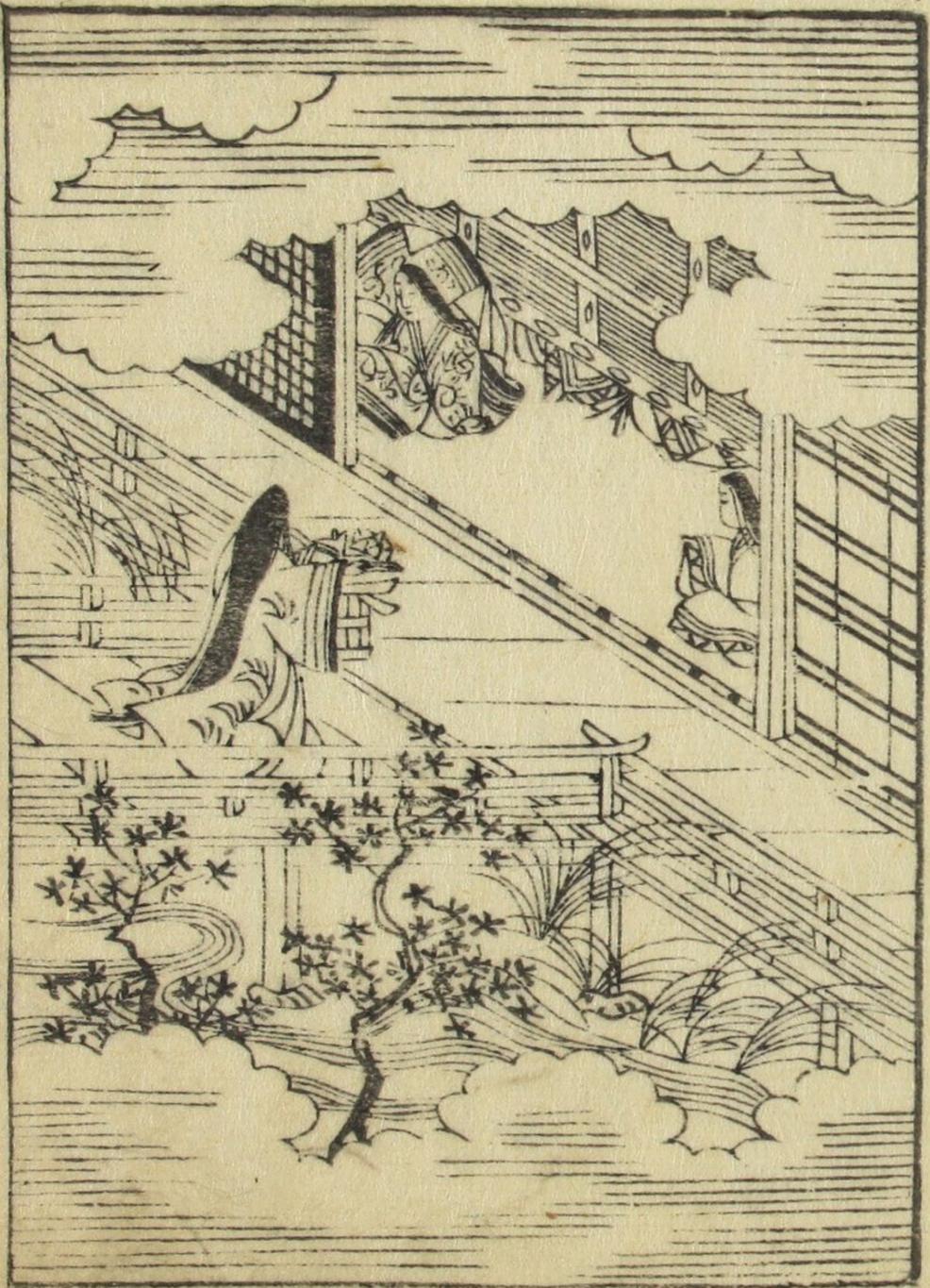
雙

那

栄

梅





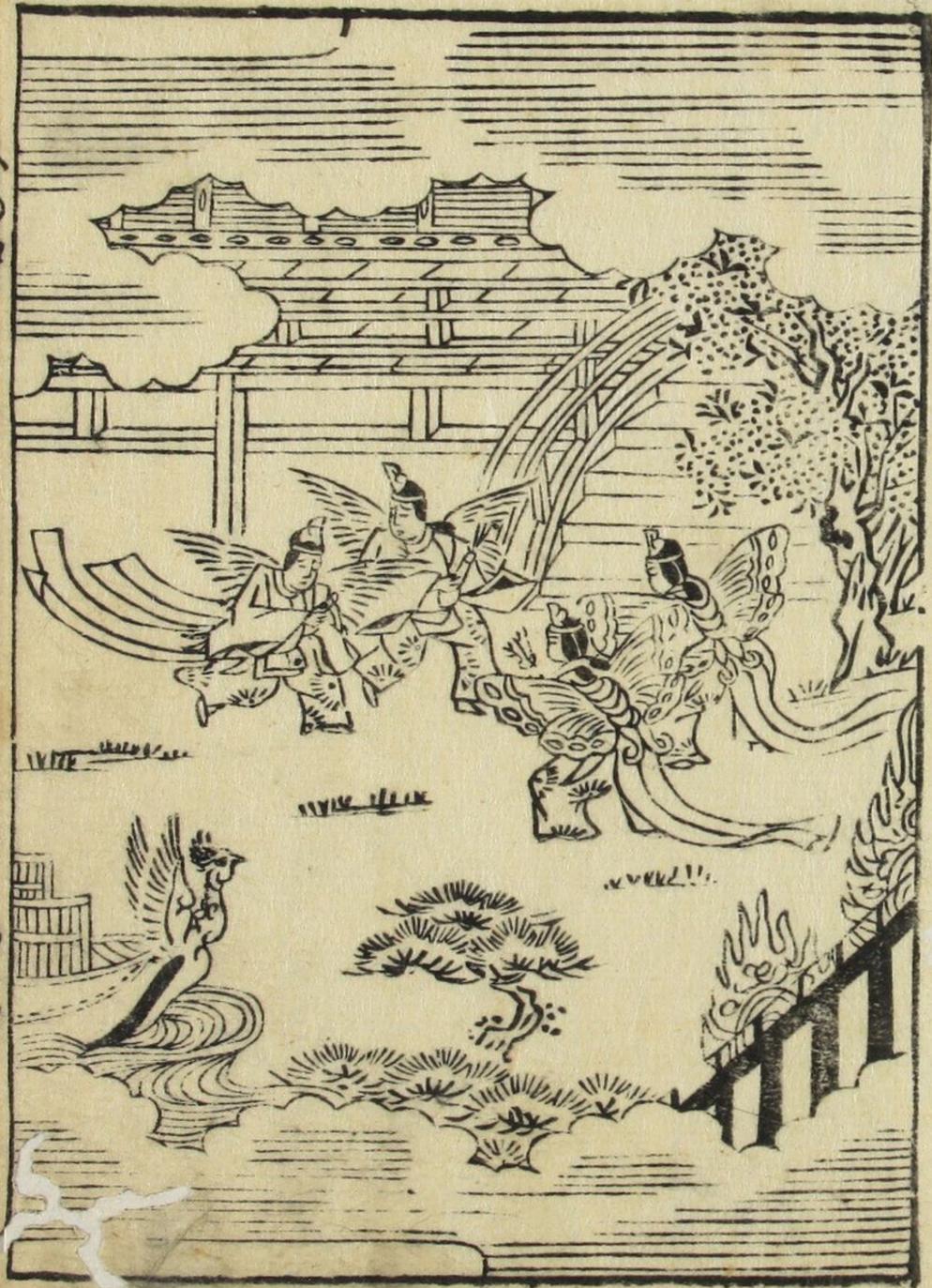
Handwritten text in a cursive script, likely a transcription of a Japanese text. The text is arranged in several lines, starting from the top right and moving downwards. The characters are fluid and connected, characteristic of a cursive style. The text is enclosed within a rectangular border.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a single column and appears to be a list or a series of entries. The script is dense and difficult to decipher without specialized knowledge of the language.

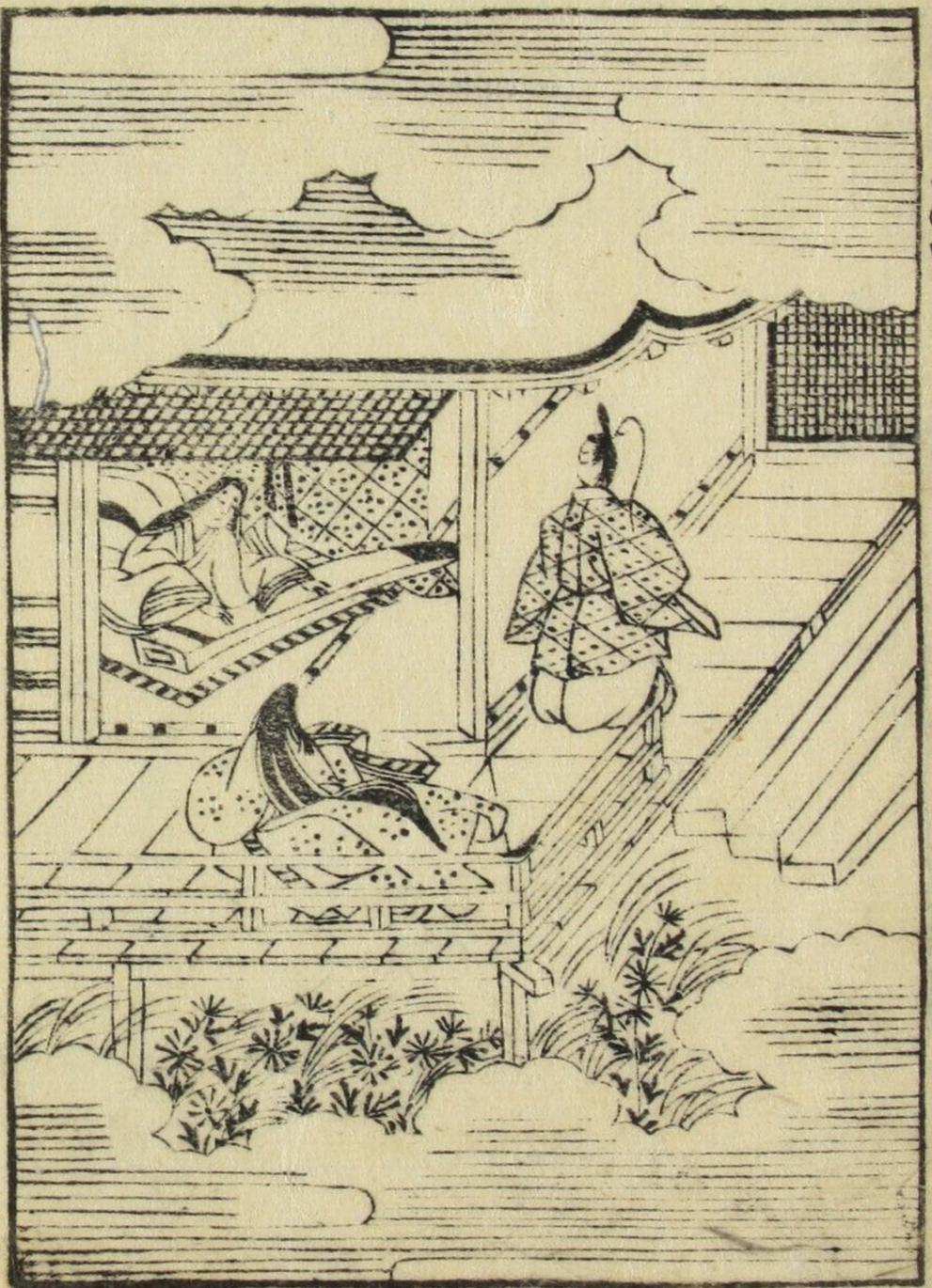
Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a single column and appears to be a list or a series of entries. The script is dense and difficult to decipher without specialized knowledge of the language.

Handwritten text at the bottom left of the page, possibly a page number or a reference mark.

Handwritten text at the bottom right of the page, possibly a page number or a reference mark.



Handwritten text in a cursive script, likely Chinese or Japanese, arranged in vertical columns. The text is contained within a rectangular border. There are some faint markings or characters at the top and bottom right corners of the page, possibly indicating page numbers or chapter markers.



二五

二六

こゝろまろ けりろきりたなりその世の
ことけ

けりろのあし

ゆのまろ

秋の葉もころも

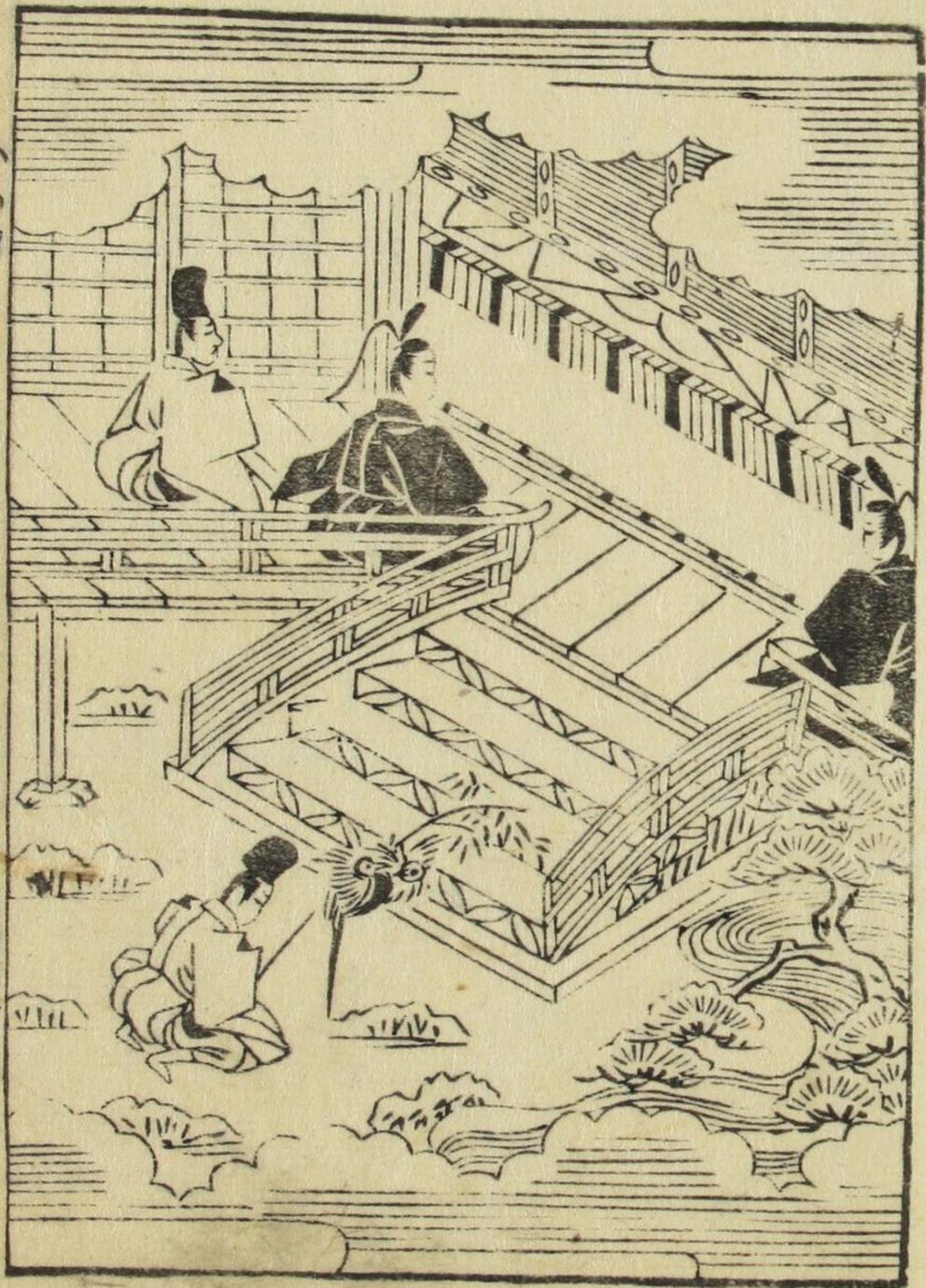
あしころきりてけりろのあし
ころもろろあしころきりてけりろのあし

清き いろのまろ

けりろのあしころきりてけりろのあし
けりろのあしころきりてけりろのあし
けりろのあしころきりてけりろのあし

二七

二八



たりしもうしき比は上月なり大東也入る
 さいののりさんめん
 書よるうがいのふよるうの
 ありさあはうがいのふよるうの

源氏四子

一 卯の御子にほはまはねとふ
くまの御子にほはまはねとふ
つゆの御子にほはまはねとふ

みゆき 一 一 一

ゆき 一 一 一

あしひらの御子にほはまはねとふ

あしひらの御子にほはまはねとふ

あしひらの御子にほはまはねとふ

あしひらの御子にほはまはねとふ

あしひらの御子にほはまはねとふ

あしひらの御子にほはまはねとふ

あしひらの御子にほはまはねとふ



此を扱えしきる月晦日のころ源氏の
 ねとのさきらの院よりたてた物ありせあり
 しこきいあつきの股乃のゆきあつとくま
 してあつひをさかたりきとさきつてく
 していといえあつひさきんあつとくま
 のあつひのさきん源氏よんはつとく
 屋とゆひりんかりはつとくまらちうま
 扱えしきる月晦日のころ源氏の
 ねとのさきらの院よりたてた物ありせあり
 しこきいあつきの股乃のゆきあつとくま
 してあつひをさかたりきとさきつてく
 していといえあつひさきんあつとくま
 のあつひのさきん源氏よんはつとく
 屋とゆひりんかりはつとくまらちうま

その年

花のふらりあしえとよとましくひと
うらん神りあさくしはらや
とありーならたさ物とちよよハみまうり
つろーえあまうあーちりすささる持の
ちこあまひなるいとほつものつなるあま
しやそとまあれあさるきさのまひし
ろーとこえひさうありてゆるうぬいそあ
くやとまやとあしたるしとさうくそくあ
しとちりつひろころんあさよ人の思ひく
よあんとまふるよいとさうあつあははあら

さうんあつとさうん中ああひあひのさ
おんらあさうさうんとあさうくしあやうさ
よああひしとけりゆ後おれとこのまを載え
あまあうしとさうしとさうりいとさうあま
よひのさのみのみらとまがらあひあはさまよ
いああうしとさうしとさうさあさうひとさく
てあうしとさうあうくりてけらあさあはさ
よたつくんよあさうしとさうあはさうああひ
あうしとさうしとさうあはさうあはさうあ
かくよあさうしとさうあはさうあはさうあ
まあしとさうしとさうあはさうあはさうあ

その年

その年

いさよやちやいあり

とる白くはねのこころのうらさけて

まろしねのうらさけてたのまん

あひまうくむいよはちんしりふらりた

ひらきいふあしひらきんうらの花

まろしりこよまてしんていさねま

ゆふさり

つくまりたてたうらさけてまじしん

花乃いよまごくねりよあうん

お連なりくじいよはちんしりふらりた

さうらねあふまらふんといはあま井の

うりたあまかりありあまの田のこらあま

はひあまあましくあまてたすしりあま

あまのいあまのうらさけてあま

はあひあまのあまかりあま

のあまのあまのあまのあま

かりあまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあまのあま

あまのあまのあまのあまのあま

小の中

つたに



とらふもつゝかきあはれぬまはるゝ
かりあひのらされいふいあてりては
たれくゝもそゝはたき院へん
とらふもつゝかきあはれぬまはるゝ

四のタマシのころからさうさうと
中絶を上げさうといつてまゝでもなめこうし
のまゝに源氏の御心もさうさうのしうさき
なりさうえ下しきりさきのたひやうなり
しそのころおんてすの御心もさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさう
ののん乃の御心もさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさう
と早^{ゆけ}りしきりさきの御心もさうさう
朱檀院の御心もさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうのしとさうさうさうさう

二十 若菜上

是とさうさうのまゝとさうさうさうさうの御心
のりさうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさうさう
た二日一日の源氏の御心もさうさう
いさうさうさうさうさうさうさう
めさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさう
さうさうさうさうさうさうさう

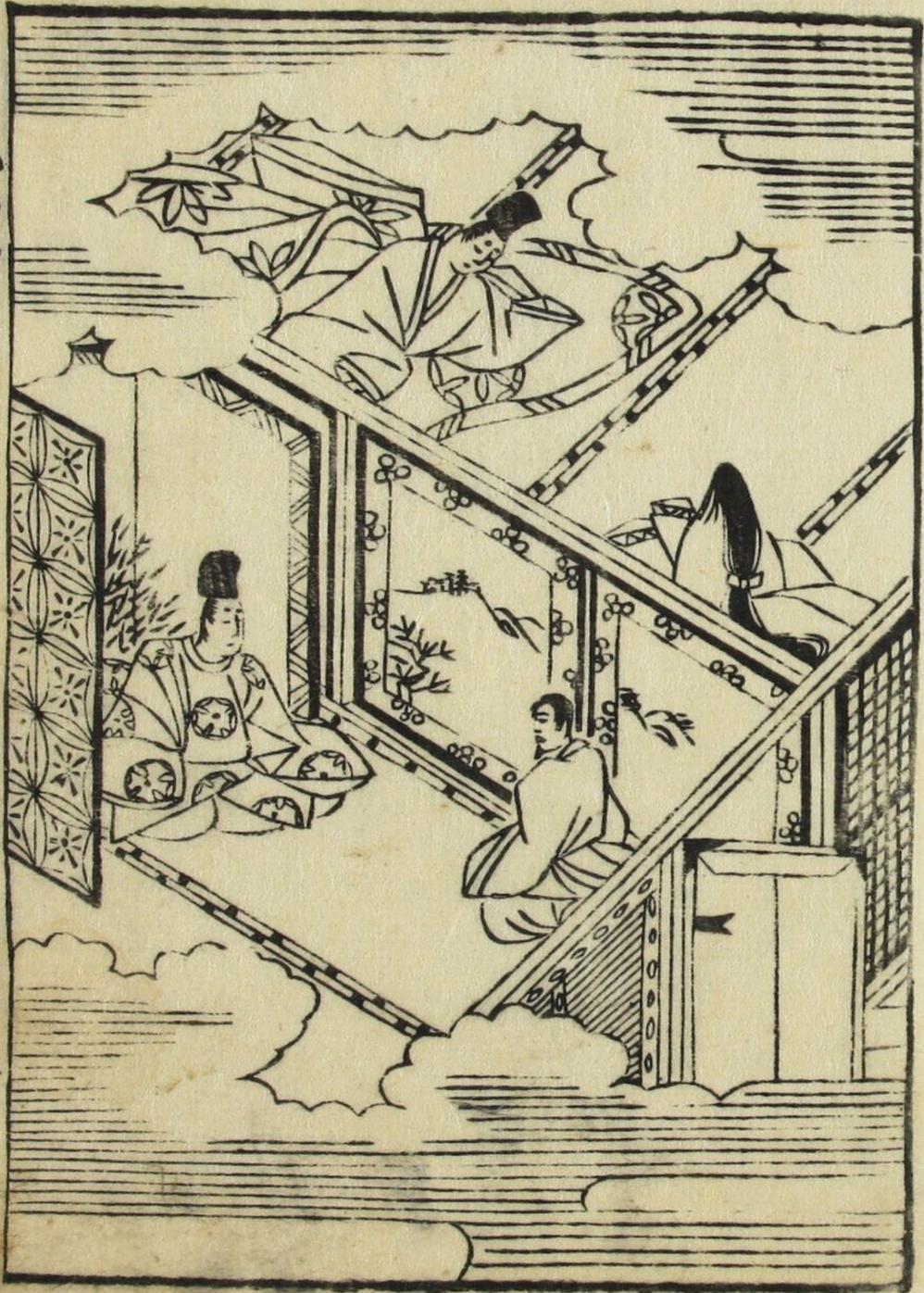
美奈下

是は公よりわかのいせにあらはれるるるは
中々美奈のまうまうとあつてつひつ
美奈のまうまうとあつてつひつ
美奈のまうまうとあつてつひつ
美奈のまうまうとあつてつひつ
美奈のまうまうとあつてつひつ
美奈のまうまうとあつてつひつ
美奈のまうまうとあつてつひつ
美奈のまうまうとあつてつひつ
美奈のまうまうとあつてつひつ





かきつゝ 聞けりあはれそそれより色ん
 りひくあしうきそ舞うゆゆはたふん
 のみみちりそあふけらあはれり
 かきそあはれりあはれりあはれり
 いろはざりそあはれりあはれりあはれり
 りり



よろこぶけ人あてくるものこのつひも
 まさきさるふをのめりし酒とちあて
 ぬをさるふをのめりし酒とちあて
 ぼあさるふをのめりし酒とちあて
 ちさりのおりぬをのめりし酒とちあて
 てさるふ

きのうのつひもこのつひも
 まさきさるふをのめりし酒とちあて

おののま

おののまのしんじつにむかひあたまを
ねむらひみちをくさくさりしんじつ
とありしときおののまのまはかりしんじつ
P多れし本よむらうしあたまをくさくかの
病のうらおまのまうむらうたおまの
あひかりなり保氏のまはかりしんじつ
とありしときおののまのまはかりしんじつ
は井よそのまはかりしんじつをくさくかの
とありしときおののまのまはかりしんじつ
しんじつをくさくかのまはかりしんじつ

おののまのしんじつにむかひあたまを
ねむらひみちをくさくさりしんじつ
とありしときおののまのまはかりしんじつ
P多れし本よむらうしあたまをくさくかの
病のうらおまのまうむらうたおまの
あひかりなり保氏のまはかりしんじつ
とありしときおののまのまはかりしんじつ
は井よそのまはかりしんじつをくさくかの
とありしときおののまのまはかりしんじつ
しんじつをくさくかのまはかりしんじつ



二十四 津の法

はきみのりともうし
 ぶきみはふ敷のりけ
 りしきちあうあわ
 りたまのいさかた
 かりのりたつと

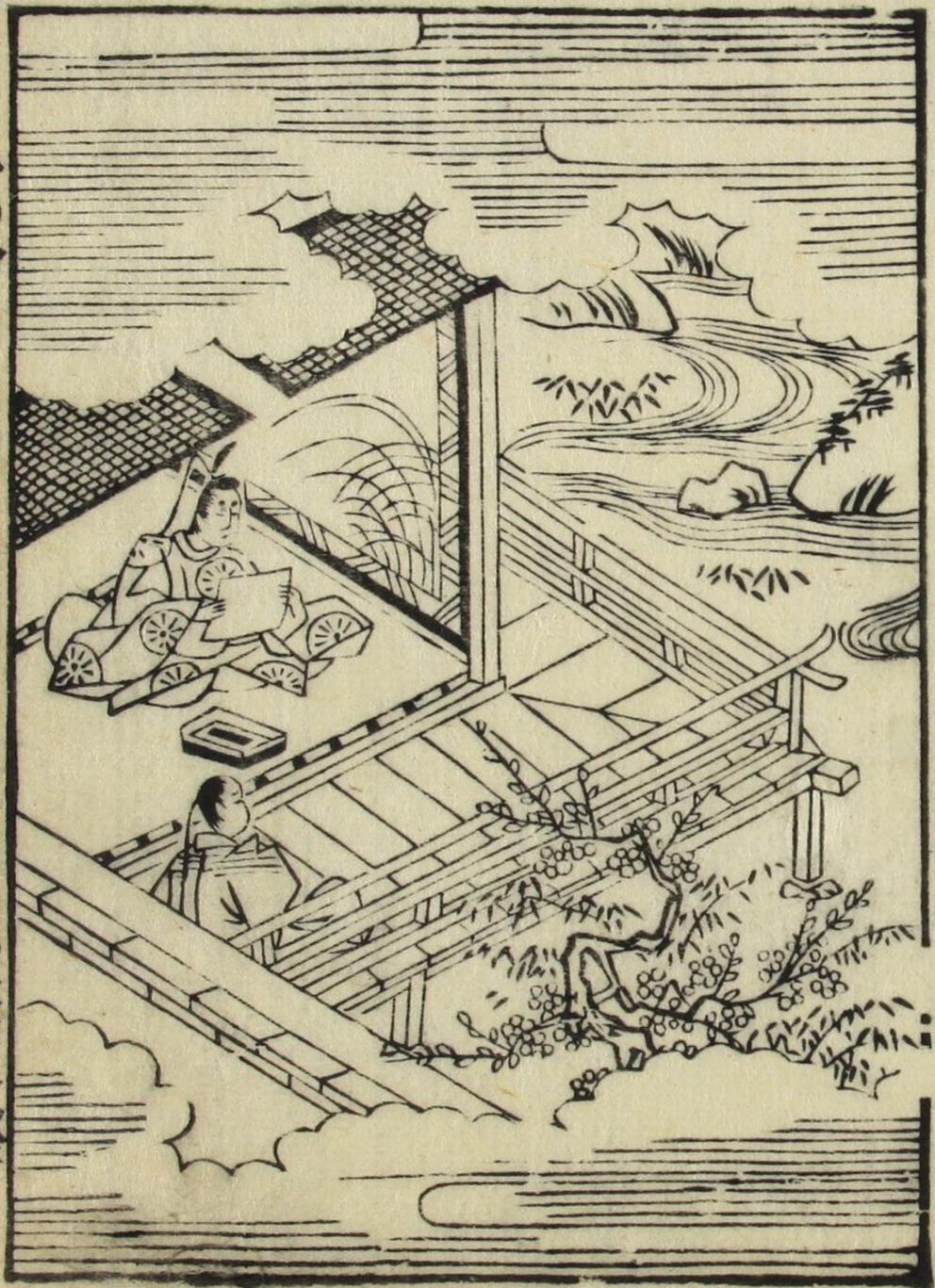
Handwritten text in a cursive script, possibly a letter or a page from a manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. The script is highly stylized and difficult to decipher. The text is enclosed in a rectangular border.

Handwritten text in a cursive script, possibly a letter or a page from a manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. The script is highly stylized and difficult to decipher. The text is enclosed in a rectangular border.

のこさうしはあてきんちくをいしてんせふ
せんの人よすまきあひのうまうりてはれん
よそせきせりよはれんうまのせりせき
ひーふよれれりかろくはれんあひのこま
らひてりしあてきんちくはれんあひのこ
とのあてきんちくはれんあひのこま
はれんあてきんちくはれんあひのこま
てりしあてきんちくはれんあひのこま
あてきんちくはれんあひのこま
とあてきんちくはれんあひのこま
とあてきんちくはれんあひのこま

あてきんちくはれんあひのこま
とあてきんちくはれんあひのこま

108
109



ことなきに...
 ねり...
 一...
 う...
 板...
 の...
 ま...
 ち...
 一...
 う...
 ま...

